

信州大学 教育学部 同窓会報

信州大学教育学部同窓会報

【第30号】

発行人 土屋 聖 史

事務局 長野市西長野6ノロ

信州大学教育学部内

TEL・FAX (026)238-4370



荷車の後押しとなつて

同窓会長 土屋 聖 史

来年は、同窓会創立三十周年を迎えます。この三十年という節目を迎えるに当たり、今後の同窓会活動をより安定的に、そして、より活発にするための記念事業は何を行えばよいのか、幹事会及び理事会で検討してきております。その記念事業の中でぜひ実現したいものが、先輩方の熱い想いでもあった「同窓会館」の設置であります。卒業生が訪れ、懐かしく大学生時代を振り返れる場所であるとともに、学生や大学教職員も気軽に活用できる教育学部のシンボリックな存在としての同窓会館が出来ないのか、同窓会館整備委員会を立ち上げ、大学側とも連携しながら協議を重ねてきております。現在の案では、平成二十六年の長野県北部地震で被害を受けた、キャンパス内にある「旧長野県庁舎書籍庫」(レンガ造り二階建ての建物、国有形登録文化財に指定)の外枠を修復するとともに、内枠には会議室や展示スペース及び小ホールを設置して、同窓会館として併用させてもらうという計画案であります。明治二十八年に長野県庁舎の書籍庫として建設、明治四十四年に長野師範学校(現信州大

学教育学部)が譲り受けて保存してきた、当時の県庁舎において現存する唯一の貴重な建物を修復・保存することによって、協力するとともに、既存の建物を活用することによって、予算面でも同窓会館の設置が可能となります。あわせて、その周りも木々が生い茂る憩いの場所に整備しようと考えております。最終的には、八月十一日に行われる総会において計画案を提案し、承認を受け実施に移してまいりたいと思います。

昨年の総会にてご講演いただいた滝澤忠男先生は、会報第二十九号に次のような文章をお書きになりました。「：同窓会は、あくまでも荷車に例えるならば後押しし団体であり、カジ棒はあくまでも学生諸氏や教育学部自身にあることの自覚は、改めて申し上げるまでもないことです。」創立三十周年を迎える当たり、改めて肝に銘じたいと思います。



旧長野県庁舎書籍庫(「赤レンガ倉庫」)

第十五期同窓会役員名簿

(平成二十七年八月～平成二十九年八月)

名誉会長

平野吉直(二十七年十二月)

顧問

永松裕希(二十八年一月)
佐野昌男 中田宣彦 三寺勝美
玉川隆雄 町田 修 深澤弘二

会長

中澤 寛
土屋聖史

副会長

小林 亨 西澤道生 中村礼子
三沢弘幸 松本千恵子

監事

宮本伸一 宮澤真一 古幡民子
別府 桂 岩田 靖 茅野公穂

本部理事

安達仁美 茅野理恵 森下 孟
瀧 直也(二十八年四月)

地区理事

畔上一康(二十八年四月)
下伊那 田中茂伸 上伊那 加藤和幸
諏訪 山田典史 木 曾 田中泰之北安曇 伊藤浩光 安曇野 筒井年恵
松 本 齋藤 裕 佐 久 原 英正上 小 原 一男 更 埴 中澤英治
上水内 小林重之須坂上高井 寺島寿一
中野下高井 芳原毅彦飯山下水内 小林和人
塩 筑 赤津勝広(二十八年五月)長 野 青木健一 佐藤文博
横山卓朗(二十八年五月)高 校 富岡 修
県 外 功刀道子 井出良子小池秀雄 土屋敏行
酒井秀樹(二十八年三月)加藤 浩(二十八年四月)
山岸千賀子 齊藤忠彦宮本 勇 小林比出代 酒井英樹
伊藤冬樹

事務局

中村直人 伴真理子

第二十八回 同窓会通常総会報告

1. 通常総会の日時・会場

平成27年8月11日(火) 午前10時開会
ホテル信濃路 長野市中御所岡田町131-1

2. 出席者数

59名

3. 開会宣言

古幡 民子 副会長

4. 挨拶

進行：宮澤 真一 副会長
土屋 聖史 会長

5. 議事

議事に先立ち、会則第16条に基づき、総会議長の互選を行う。

(1) 議長団の選出

小林重之・佐藤文博の両会員を議長団に選出した。

(2) 議事録署名人の選出と書記の任命

山崎澄人・田中茂伸の両会員を議事録署名人に選出し、宮澤昌道・茅野公穂の両会員を書記に任命した。



会長挨拶 土屋聖史会長



祝辞 平野吉直学部長

第二号議案

平成26年度事業報告書、歳入・歳出決算及び財産目録の承認について

(1) 中村直人事務局長より総会資料に基づき、平成26年度事業について説明があった。これに対し、支部組織での活動の検討など組織充実に関する意見が出された。

(2) 岩田靖幹事より総会資料に基づき、平成26年度

歳入・歳出決算報告及び財産目録について説明があった。また、三沢弘幸監事より業務監査・財務監査の結果、適正に処理されているとの報告があった。

第二号議案

平成27年度事業計画(案)及び歳入・歳出予算(案)の承認について

(1) 中村直人事務局長より総会資料に基づき、平成27年度事業計画(案)についての説明があった。これに対し、同窓会の活動充実のため、地区理事との連携等強化策の検討、創立30周年事業の構想、大学を取り巻く状況を踏まえた財政補助など財産用途の検討、教育学部や教員・学生への支援のみならず教育学部等への具申の検討に関する意見が出された。また、関連して、教育学部卒業生の就職率、入学定員充足率についての質問、教育学部で養成する教員像への要望が出された。

(2) 岩田靖幹事より総会資料に基づき、平成27年度歳入・歳出予算(案)についての説明があった。これに対し、創立30周年に向けて準備会を立ち上げる等のために特別会計の検討に関する意見が出された。

原案どおり拍手により全員一致でこれを承認した。

第三号議案

第15期役員の改選について

土屋聖史会長より、退職した校長職経験者から新会長を選出することの必要性の検討と選出経過について報告があり、幹事会、理事会での推薦を踏まえて第15期会長を引き続き担う案についての説明が

あった。

また、土屋聖史会長より、配付資料に基づき第15期副会長、監事、理事、幹事が推薦された。原案どおり拍手により全員一致でこれを承認した。

6. 来賓祝辞

平野吉直氏(教育学部学部長)のご臨席があり、祝辞をいただいた。

7. 閉会宣言

古幡 民子 副会長



講演 滝澤忠男先生



平成26年度信州大学教育学部同窓会一般会計歳入歳出決算書

自 平成26年4月 1日
至 平成27年3月31日

歳入合計額 6,463,927円也
歳出合計額 5,472,582円也
差引残額 991,345円也 翌年度へ繰越

〈歳入の部〉

項 目	予 算 額	決 算 額	増・△減	備 考
1 前年度繰越金	1,083,251	1,083,251	0	
2 会 費	5,800,000	5,380,000	△ 420,000	269名入金
3 雑 収 入	5,000	676	△ 4,324	利子
歳 入 合 計	6,888,251	6,463,927	△ 424,324	

〈歳出の部〉

項 目	予 算 額	決 算 額	増・△減	備 考
1 会 議 費	580,000	326,098	△ 253,902	総会・役員会等
2 事 業 費	1,300,000	1,070,522	△ 229,478	会報・学部後援等
3 事 務 費	2,315,000	2,118,068	△ 196,932	会報発送・印刷等
4 事務委託費	1,630,000	1,630,000	0	雇用費等
5 雑 費	150,000	134,358	△ 15,642	連合会会費・謝恩会御祝儀等
6 予 備 費	913,251	193,536	△ 719,715	HP外注費
歳 出 合 計	6,888,251	5,472,582	△ 1,415,669	

ご挨拶

教育学部長 永松 裕希



平成28年1月より、教育学部長を務めております永松裕希と申します。グローバル化や情報化、少子高齢化など、想像を超えた速さで社会が変わりゆく中、学校教育も多くの変革を求められております。このような中で教員養成を担う本学部の運営にかかわりますことに、身の引き締まる思いであり、次の時代の発展のために微力ながらも懸命に務めたいと思っております。

さて、信州大学教育学部および教育学研究科は、本年度4月より新しい学部・大学院として学生たちを迎えました。今回の改革は、次の時代を生きる子供たちのための新しい学びを創り出せる教員の養成と、学校現場での諸課題にチームの中で問題解決を牽引できる教員の養成を目指したものです。また、長野県教員委員会様とより強固な連携のもとに、信州の素晴らしい環境を活用した人材育成と、長野県の実践課題の解決に貢献し得る人材育成を目指した改革でもあります。この新しい学部・大学院をご紹介します。ご挨拶とさせていただきます。

○教育学部は、学校教育教員養成課程のもとに、野外教育コース、心理支援教育コースを新設し、特別支援教育コースを再編して、14コースから成る教育組織となりました。新設された2コースは、次のような教員の養成を目指しています。
・生涯スポーツ課程で培ってきた人材養成力を活か

して新たに「野外教育コース」を設置し、登山・キャンプ、スキー・スケートなどの野外活動を指導できる教員を養成します。

・教育カウンセリング課程で培ってきたノウハウを活かして新たに「心理支援教育コース」を設置し、いじめ、不登校、発達障害などへの対応ができる教員を養成します。

○大学院教育学研究科では、専門職学位課程である高度教職実践専攻（教職大学院）を新設し、これまでの修士課程と教職大学院の2つの課程を持つ研究科になりました。

これまでの修士課程は学校教育専攻の1専攻に統合し、そこに学校教育専修、臨床心理学専修、教科教育専修の3専修を設置しました。また、教職大学院は、教育現場の複雑で多様な課題に対応できる教育実践における高度専門職の養成を目的として、実践的指導力を高めるための学校現場をフィールドとした授業科目と、近隣の公立学校・教育学部附属学校に教育研究の場を設け、大学院教員が訪問して協働で問題解決を図る「学校拠点方式」による授業をおこなっています。

このように、平成28年度は新しい教育学部、教育学研究科のスタートの年となりました。同窓会会員の皆様におかれましては、日頃から教育学部の運営と学生の勉学に対しまして、教員採用に向けての模擬試験の実施など、多大なご力添えをいただいております。教育学部教職員を代表いたしまして心から感謝申し上げます。新生教育学部に対しまして、引き続き、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

学部の新転任・転退職教員の紹介

【平成二十七年～平成二十八年新転任教員】

桐原 礼 先生（音楽教育）

瀧 直也 先生（スポーツ科学教育）

佐々木洋城 先生（数学教育）

JUNG HOJUNG 先生（家庭科教育）

畔上一康 先生（教職大学院）

市川 公明 先生（教職大学院）

大藪 勝 先生（教職大学院）

油井 幸樹 先生（教職大学院）

【平成二十七年転退職教員】

高橋 渉 先生（言語教育）

昭和五十九年四月一日着任、定年退職

松岡 樂 先生（数学教育）

昭和五十五年一月一日着任、定年退職

渡邊 伸 先生（スポーツ科学教育）

昭和五十年八月十六日着任、定年退職

松岡 英子 先生（家庭科教育）

昭和五十三年十一月一日着任、定年退職

藤井 善章 先生（教育科学）

平成二十五年四月一日着任、退職

平野 吉直 先生（長野県との人事交流）

平成二十七年九月三十日教育学部教授退職

平成二十七年十月一日信州大学理事

学長挨拶

信州大学長

濱田 州博
はまだ くにひろ

平成27年10月1日付で信州大学長に就任しました濱田州博でございます。日頃より信州大学教育学部同窓会の皆様には、一方ならぬご支援、ご協力を賜りまして誠にありがとうございます。

まずは厚くお礼を申し上げます。簡単に自己紹介をさせていただきます。1959年（昭和34年）兵庫県神戸市に生まれました。兵庫県立兵庫高等学校を卒業し、1年間浪人生活を送った後、東京工業大学に入学しました。博士課程まで9年間を東京で過ごした後、つくば市（当時は桜村）の通商産業省（現在の経済産業省）工業技術院繊維高分子材料研究所に1年2ヶ月勤務し、1988年6月より上田市にある信州大学繊維学部で大学教員生活を始めました。長野県在住がもうすぐ28年となります（1年間アメリカに留学していましたが）、人生では長野県で最も長く生活しております。昨年10月からは松本で平日は暮らしており、これまでとは異なる景色や環境にすっかり慣れてきたところです。専門は、繊維染色化学で、化学がベースです。

教員免許更新講習には、平成20年度に行われた準備講習から関わっており、教育学部同窓生の皆様の中にはそこで目にかかった方もいるかと思えます。ここ何年かは「衣食住で使用する色材」と題して色をつけるための材料の話をさせていただいておりました。

教育学部は、本年度改組され1課程14コースで入学生を受け入れたところです。また、大学院教育学研究科には、高度教職実践専攻（教職大学院）が設置されました。教職大学院には現職教員も入学しております。今後教育学部同窓生の皆様には、教職大学院への入学に対してご考慮いただければと思います。

大学は、在学生や教職員だけではなく、様々な方々

とともに歩んでおります。同窓会の皆様とともに歩んでいける大学になることを目指したいと思っておりますので、これまでと同様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

大学の執行部を経験して

前信州大学理事・副学長

赤羽 貞幸



今振り返って見ると、大学本部に勤めた6年間は、法人化した後の激動する国立大学が大きく変わる、また変わらざるを得ない状況に置かれていた時期にあたりました。在任中は、主として教学（教育・学生）、入学試験、国際教育交流の仕事を担当し、多くの関係者のご協力を得て次のような教育改革に取り組むことができました。

教育の面では、大学の教育組織の責任と任務を明確に、教育組織を見直し、ミッション再定義に基づく各学部改組という大きな改革を実施しました。一方、豊かな学びの質を保証する全学共通のシステムづくりでは、成績評価の厳格化やカリキュラムの体系化の見える化を図りました。具体的には信大方式のGPA制度の導入、成績分布の公表、DPと関連付けたシラバスづくり、ナンバリングの導入、e-learningシステムの活用、FDの充実、ICカードによる出欠確認などを実施し、きめ細かい修学指導を開始しました。また、「教養ゼミ」の必修化に向けた準備、基本的スキル習得のための「大学生基礎力ゼミ」の拡充など初年次教育と共通教育の充実を試みました。

入学試験の関係では、アドミッションセンターを強化するために専任教員を配置し、入試データの調査・分析、学外の入試情報の収集、学部との密接な連携ができる体制をつくるなど、全学のセンターとしての機能強化を図りました。また、これまで長年の課題

であった全学共通の入試問題作成体制をつくり、27年度から実施することができました。

国際教育交流の面では、国立大学の使命として世界に目を向けたグローバル人材の育成に取り組みむことが求められました。その中核としてグローバル教育推進センターを立ち上げ、外国語研修のみならず各学部の教育と関連した海外研修プログラム等により海外体験の機会を増やし、さらに世界に目を向けた留学や専門教育研究の発展につながることを目指しました。また、これらの教育を推進するために各種の経済支援制度も設けました。

法人化した現在の国立大学は、6年間の中期計画に基づく評価を定期的に受け、その結果が公表され法人の運営費交付金にも反映してきます。中期計画に盛り込んだ目標を計画以上の段階に達成することが常に求められています。また、毎年新聞・雑誌など各種のメディアによる様々な側面から大学の評価が公表されています。幸い信州大学は、各種の評価で私たちが予期している以上の高い評価を得ています。例えば、日本経済新聞社の地域貢献度調査では、平成24年度から4年連続全国1位にランキングされ、民間会社による卒業生の評価も非常に高い結果がでています。地域貢献度が高いことは、信州大学が信州に存在する価値の高いことを示し、この評価の一部には地域における大学の評価、卒業生の評価なども含まれています。また、同窓会の活動は、大学・学部を直接ご支援いただく強力な力であると同時に大学・学部の社会的評価を高める役割をも担っています。

教育学部同窓会におかれましては、発足以来教育学部の発展に大きく寄与されとともに、平成26年3月にスタートした信州大学全体の同窓会、「信州大学学友会」の発足にあたって大きな役割を果たされてきました。卒業生の皆様の信州大学に対するご期待とご支援が大学発展の大きな力となっています。在任中にいただきましたご支援に感謝するとともに、今後の教育学部同窓会のご発展を祈念しております。

教育学部生の活動紹介

第50回音楽教育コース定期演奏会を終えて

音楽教育コース 四年 柳澤 あやめ

音楽教育コースでは毎年12月に定期演奏会を行っています。これは私たちが日頃の授業で培った音楽を発信する場として、音楽教育コース全体で取り組む演奏会です。各授業や各研究室における学生の取り組みを、多くの方に知っていただく絶好の機会でもあります。

定期演奏会では様々なジャンルの音楽を取り上げています。授業で日本の伝統的な楽器を取り扱うため、普段あまり聴く機会のない箏の演奏、オペラのワンシーンを抜粋しての声楽の重唱、学生自身が作曲したオリジナル作品の演奏発表、台本演出からすべて学生で作るミュージカル、一人一人が管打楽器を練習して参加する吹奏楽など、音楽のジャンルは多岐にわたります。平成27年度は第50回という大きな節目となる定期演奏会であったため、例年行っている箏の演奏、吹奏楽、各研究室の演奏発表に加えて、コースのOB・OGとの合唱や附属長野中学校との合同合唱なども行い、より華やかな演奏会となりました。

私はこの演奏会を通して、音楽の奥深さと、人を繋ぐ力を実感しました。音楽は一人でも演奏ができますが、共に演奏する仲間が加わることで、音楽表現の幅が広がります。仲間がいなければできない音楽に出逢い、自分の知らない音楽の世界を広げていくことができるのは学生だからこそできることだと実感しました。演奏会のための準備や練習の多忙さから逃げ出したくなる時もありましたが、仲間と一緒に本番を無事に終えた時は喜びと感動で胸がいっぱいになりました。

今年も次の演奏会へ向けて動き出しました。私たち4年生にとっては最後の演奏会となります。素敵な演奏会となるように、一層練習に励んでいきたいと思います。

平成二十七年 卒業記念展覧会

平成27年度卒業 国語教育コース 水越 優

私たち国語教育コースの学生は、卒業するにあたって、それまでの学びの総括として卒業記念展覧会を行います。「絵画・彫刻・デザイン・理論」それぞれの研究室で、それぞれの学生が、それぞれの思いを込めて作品を作りました。今年は「輪」と「成長」をテーマとし、展覧会全体の雰囲気を作りあげました。

例年は信濃美術館のギャラリーをお借りしているのですが、今年は工事の都合から、ホクト文化ホールのもので広いギャラリーをお借りしました。会場に比べ、作品の展示数が少ないことが、計画当初では懸念事項の一つでしたが、いざ会場を実際に自分たちで見て、それをもとに自分たちの作品をどのように展示するかを考えて、配置していくと、作品と作品の間隔が広いからこそ表現できる開放的な雰囲気会場全体に流れ、それぞれの作品がひととき目立つような展示ができました。

展示内容としては、絵画作品が2点、彫刻作品が1点、デザイン研究室制作作品が2点、理論系パネルが4点というような構成で、展覧会会期中1週間でおおよそ450名ほどのお客様にお越しいただきました。中には教育実習でお世話になった先生方や、はたまた過去の恩師など、展覧会を通して、人と人との「輪」を育み、私たち学生の4年間の「成長」を示す一つの自信となったように思います。

卒業生9名によるこの度の卒業記念展覧会、準備段階から当日の会期中の運営やその後の片づけまで、ほとんどを学生で進めました。しかし、それらは決して9名だけで成し遂げられたものではありませんでした。展覧会を開催するにあたってたくさんの方々に支えられてきました。この場をお借りしてお世話になった方々へ御礼申し上げます。今後に向けては、我々の代で築いた「輪」を大切に、美術教育コースの卒業記念展覧会をご覧になってください。



平成二十七年 卒業書道展

平成27年度卒業 国語教育コース 水越 優

平成27年度卒業書道展は、2016年2月17日から五日間開催しました。連日多くの方にご来場いただき、書道教育研究室生一同あたたかい気持ちで胸がいっぱいとなりました。今年度も昨年度までと同様に、一年間書道の研鑽を積んだ学生たちの成果を発表しました。また、書道教育研究室の4年生・3年生で王羲之「蘭亭序」の全文を継いで臨書をし、屏風にまとめました。そして、今年度の展覧会では、長野県知事指定伝統的工芸品「龍溪硯」について調査した結果を発表しました。

龍溪硯は長野県上伊那郡辰野町で採れる龍溪石から作ります。深い黒に所々酸化した朱が混じっており、墨がよく磨れます。鑑賞用・実用のどちらとしても良質の硯として名高いです。私たちは辰野町へ行き、実地調査を行いました。山の中の採石地と数少ない硯工房の翠川硯店を訪れ、硯制作の話を伺うことができました。さらに、高遠高校書道科の泉逸男先生にご指導いただき、硯制作の一部を体験しました。硯を制作する大変さと面白さに合わせ、石の硯で墨を磨ることの重要さを感じることができました。この活動は「平成27年度信州アカデミア(信大COC事業)COC研究教育補助」を受けて行いました。卒業書道展は、卒業論文と並び、学生生活の集大成です。展覧会開催には、多くの時間と汗を費やします。論文執筆と並行して開催準備をこなすことは、決して楽ではありません。しかし、先生方や先輩方、後輩たち、地域の方々からの支えがあり、最後までやり遂げることができました。

実は、現在信州大学で教鞭を執っていらっしゃる小林比出代先生のご指導の下で開催する卒業書道展は、今年で三年目です。前任の市澤静山先生のご指導の下で開催されてきた展覧会とは年数が空いており、私たちはそれらのノウハウを受け継ぐことができませんでした。新たにイチから自らで考えていく先輩たちの姿を見て、私たちは強い憧れを抱きました。自分たちの代を通してこの展覧会が後輩に渡ったことを、嬉しくも寂しく思います。

同窓会情報

教育学部同窓会・研究補助事業について

本号でも、平成十五年度より実施しております同窓会研究補助事業についてお知らせいたします。

本事業の主旨は、①日々の教育研究、教育実践を大切にし、自らの授業改善に努めること、②専門職としての教師自らの教育研究・教育実践を磨くこと、③教育の振興・改善についての情報を共有していくこと、に置かれています。対象者は教育学部同窓会員（同窓会費納入者）で、応募者一律に一万円を補助しています。

応募希望者は所定の様式（「研究補助願及び研究概要」）にしたがって、同窓会事務局（〒380-8544 長野市西長野6-10）にお申し込み下さい。当該年度の十一月末日を応募締め切りとしています。応募規定などの詳細な内容は、同窓会ホームページをご覧ください。なお、お申し込みの際には必ず事務局までお問い合わせ下さい（研究補助は十名までとなっております、受付可能かどうかの確認のためです）。

平成二十七年助成交付の研究テーマ

- ① 西山 裕一（長野市立西部中学校）
「不登校解消のための有効な手立ての研究」
- ② 山際 正巳（長野県安曇養護学校あづみ野分教室）
「卒業後の自立に向けた教育課程の編成」
- ③ 藤森 隼一（長野市立山王小学校）
「特別支援学級に在籍する子どもの交流学級にお

ける授業参加」

- ④ 瀧澤 俊明（佐久市立田口小学校）
「青少年赤十字防災教育」

- ⑤ 吉越 秀之（長野市立川田小学校）
「児童に思考をうながす言語活動のあり方について」

て」

- ⑥ 河島 謙造（長野市立若穂中学校）
「中学校英語科授業におけるアクティブラーニングについて」

- ⑦ 小泉 一輝（長野市立若穂中学校）
「生徒のやる気を引き出す学習者のスタイルを意識した授業」

- ⑧ 佐久 理絵（長野市立若穂中学校）
「ふり返りカードを利用した授業」

以上が、平成二十七年における補助金交付者及び研究テーマに関する一覧です。これら大いに参考にしていただき、積極的に応募していただきますよう、よろしくお願いいたします。

研究実践より

不登校解消のための有効な手立ての研究

長野市立西部中学校 前校長 西山 裕一

平成27年度に信州大学教育学部の同窓会から研究補助をいただきました。その補助をもとに文献や先行事例等を学ぶことができ、お陰さまで大きな成果を上げるとともに、職員一同不登校解消への手応えと方向性を確認することができました。ここに報告させていただきます。

行ったことは2つの視点からです。

- ① 不登校に至っている生徒・保護者の支援

- ・ コーディネーターの役割とチームづくり
- ・ 個別カルテの作成
- ・ 不登校等児童生徒支援員の関わり
- ・ 多数の教員が関わる校内中間教室の運営
- ・ 親の会の開催
- ・ 外部機関との連携 等

- ② 未然防止への取り組み

- ・ スクリーニングによる予備軍の掌握
- ・ 欠席状況の共有化と対応
- ・ Q・U検査の活用
- ・ 人間関係づくりの活動を、授業の学習活動と、西部タイムとして週日課への位置付け
- ・ 校長と全生徒との個人面談 等

下の写真は、西部タイムで取り組んだ「学級対抗の空き缶積み」の様子です。日課の中に生み出した25分の時間で、生徒が喜々として取り組みました。自然と友との関わりが増え、会話が弾みました。週一回の楽しい活動は生徒に好評です。不登校解消に特効薬はありませんが、あるとすれば職員の意識化だと思っています。一人ひとりの持ち場で行った実践の積み重ねが、お菓子のパイ皮のように積み重なって厚みとなりました。その結果として不適応・不登校の生徒が減少したと考えています。一人では成し得なかったこともチームとして働いたからこそ形となって表れたと思っております。



学級対抗空き缶積みで優勝の様子

卒業・修了生の就職状況

就職部長 佐藤 運海

本学部の就職支援活動に対して、教育学部同窓会より多大なご支援をいただき、心より感謝いたします。

さて、平成二十七年年度の教育学部卒業生及び大学院教育学研究科修了生の進路状況が下欄の表のとおりにまとまりましたので、ご報告いたします。教員就職率は昨年度と比べ、大きな変動がなくほぼ同様になっております。

平成二十八年度卒業生・修了生においても、大きな変動はないものの多少厳しくなると考えられます。既に公表された長野県の「平成二十九年公立学校教員募集案内・採用選考要項」によりますと、平成二十八年度と比べ、各校種の教員採用人数は若干減りました。これは現役教員退職者の再雇用に係る人数の変動によるもので、政策的な変化ではないと確認しております。いずれにせよ、本学部及び大学院の学生にとって厳しい状況であり、この厳しい状況は今後も続く可能性が大きいです。本学部としては皆様のご支援をいただき、教員採用率を少しでも向上するように努力していきたい所存です。

今後皆様から忌憚のないご意見・ご要望をいただき、就職支援を充実させたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。



平成27年度卒業生・修了生 進路状況

就職・進学別 学部 大学院別			就 職 者																進 学 者				現 職	家 族	臨 時	未 定	合 計	備 考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
			県 内								県 外								大 学 院																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
			小 学 校								中 学 校								大 学 院										大 学 院																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
			小 学 校								中 学 校								大 学 院										大 学 院																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
学 部			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程			学 校 教 育 教 員 養 成 課 程		

信州大学教育学部同窓会

第二十九回通常総会(通知)

- 日時
平成28年8月11日(木)
午前10時より
- 会場
長野市岡田町
「ホテル信濃路」
- 次第
1. 開会宣言
 2. 会長挨拶
 3. 議長団選任
 4. 議事録署名人の選任並びに書記の任命
 5. 議事
第1号議案 平成27年度事業報告及び歳入・歳出決算報告について
第2号議案 平成28年度事業計画(案)及び歳入・歳出予算(案)の承認について
第3号議案 第15期役員の交代について
第4号議案 同窓会創立30周年記念事業について
 6. 来賓紹介、代表挨拶
 7. 閉会宣言

記念講演会: 12時より
講師: 清水 厚實 氏
祝賀懇親会: 13時より

記念講演のご案内(一般公開)

教育学部の運営・発展に貢献する同窓会

学校法人福山大学理事長 清水 厚實 氏

信州大学教育学部同窓会は、第一に母校教育学部の運営、発展を全面的に支援、協力すること、第二は長野県はじめ全国の学校や教育行政、教育研究機関等に勤務する教員や研究者の活動を支援することを目的として設立されたものでもあります。

平成二十九年には同窓会創立三十周年を迎えることになりますので、この機会に改めて同窓会設立の原点に思いを致し、全卒業生が一丸となつて、その設立目的を達成するよう努力してほしいものと考えております。

さて、長野県の教育は、歴史的にみて長野師範(男子部、女子部)の卒業生が中心となつて明治以降の近代教育を進めてきたものであります。しかし、本県の特長な地域環境から近隣都府県の師範学校等の卒業生も長野県の学校に赴任し教師として活躍しているものが多いことから、長野師範を中心とした同窓会を作ることにはセクト的になり、民主的でないとして、その設立を厳しく戒めてきたといわれております。

ところが、戦後の教育改革により信州大学教育学部が設立されたわけであり、学部はあつても大学院が無いというところから、大学当局の強い要請もあつて一期生が中心となり、昭和六十二年に同窓会を設立し、大学院作りをはじめ

述べた目的を達成することにしたものであります。

もともと長野県は「信州教育」として広く全国に知られているものであり、その原点は明治維新を指導した佐久間象山をはじめ、多くの学者、教師、官僚を輩出し、わが国の教育や教育行政の上で大きな役割を果たしてきました。

また、大学の設立についても大正四年には伊藤長七(東京高師教授)が雑誌「信濃教育」に「信濃大学創設の国論を樹立すべし」を寄稿し、県下に大きな反響を呼びました。

さらに昭和三年十月には、松本で開かれた信濃教育会(明治十九年設立)臨時総会において東筑摩教育部の川船千嘉恵が「信州大学創立促進につき調査研究を進むるの件」を建議し、可決されています。しかし、これらの大学設立に関する提案は、その後の第一次、第二次世界大戦などにより実現することはありませんでした。

来る八月十一日の同窓会総会では、同窓会設立の経過等に合わせ、信州教育を支えた学者、教師、官僚等の紹介や大学院作りについて教育学部長と一緒に文部省の大学学術局(当時)を訪ね、指導を戴いたこと等についてもご報告したいと考えております。

【略歴】

信州大学教育学部卒業(昭和二十八年三月 学部第一期卒業生)、全国教育研究所連盟常任委員、社団法人日本図書教材協会専務理事、財団法人図書教材研究センター所長、学校法人福山大学理事長、日本教材学会会長

事務局便り

記念講演終了後、「ホテル信濃路」において祝賀懇親会(会費四、〇〇〇円)を開催します。

こちらへも多数ご参加くださいますようお願い申し上げます。申し込みは同封の葉書で事務局までお願いいたします。

○同窓会ホームページをご覧ください。

事業の紹介や同窓会報のバックナンバー等を閲覧することが出来ます。信州大学教育学部 同窓会 で検索、または、以下のURLをご指定ください。

<http://www.shinshu-u.ac.jp/group/education-alumni/>

○研究補助受付中

研究補助申請を四月より受け付けております。詳細は同窓会ホームページをご覧ください。また、本号の六ページ「同窓会情報の欄」をご参照ください。昨年度の助成交付の研究テーマなどが掲載されております。

○住所変更をお忘れなく

転居の際には住所変更の届を事務局宛てにお願い致します。メールでも結構です。

○会費の二重払いについて

同窓会費の二重払いに注意してください。同窓会費は終身会費です。未納者には、後日、納入願いの書面が届きます。二重払いの場合にはお返ししますが、振り込み手数料等がかかりますので全額返金ではできません。

事務局連絡先

電話 026-238-4370

月・水・金 9:30 ~ 16:30

HP <http://www.shinshu-u.ac.jp/group/education-alumni/>Email kdousou@shinshu-u.ac.jp